

# 平成29年度 学校関係者評価報告書

学校法人呉竹学園  
東京医療専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人呉竹学園 東京医療専門学校 学校関係者評価委員会は「平成28年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

## 1. 学校関係者評価委員

鍼灸マッサージ科 鍼灸科	業界関係	：岩元 健朗	(東京都鍼灸師会)
	保護者	：大竹 健一	
	卒業生	：二神 幸一	
柔道整復科	業界関係	：西沢 正樹	(帝京平成大学)
	保護者	：春日井 有輝	
	卒業生	：内野 直樹	
高等学校	進路指導	：山口 智基	(千葉県立浦安高等学校)
	校長	：齊藤 秀樹	
	統括科長	：村上 哲二	
鍼灸マッサージ科/鍼灸科	科長	：船水 隆広	
柔道整復科	科長	：杉山 直人	
鍼灸マッサージ教員養成科	科長	：中村 真通	
	事務長	：建石 泰三	

## 2. 平成28年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	平均値	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・育成人材像	3.9	<p>○各科とも教育理念に基づき、教育目的・育成人材像が明確に定められ、専門知識・技術の習得による臨床能力の強化を図るカリキュラム構成がなされている。</p> <p>○社会のニーズとして、在宅医療の知識や技術を教育の中に取り入れる必要がある。</p> <p>○附属施術所をより一層有効活用することにより、学生への情報発信がスムーズに行えると考える。</p>	<p>○本校の教育理念・教育目的・育成人材像に対して全教職員が引き続き理解を深めていくことにより、学生に対して知識・技術を提供する機会を拡充することに努める。</p> <p>○TCIコーチング導入や学園附属教育センターの指導を通じて、学力向上に向けての初年次教育の充実と効率的な補習授業並びに生活指導を含めた個別指導の充実を図る。</p> <p>○学校として注力している学外活動・特別授業(モチベーションアップセミナー)・臨地実習を通じて業界との連携を密にすることにより、変動する社会のニーズを即時把握し教育に反映していく。</p> <p>○年間延べ10,000名の患者が来所する附属施術所の症例を教育に反映していく。</p>

評価項目	平均値	評価	評価に対する今後の学校の取組等
2. 学校運営	3.9	<p>○ホームページ・SNSにて適切に情報が発信されている。</p> <p>○医療連携ができる知識と鑑別できる臨床能力を習得し、医療関係者から評価を得ることが重要である。</p>	<p>○学園附属教育センター主導で教職員の教育力及び業務能力を高めていき、学園3校の教職員が教育情報を共有できる体制を整えていく。</p> <p>○提携治療院及び医療機関等に対し、臨地実習における業界ニーズのフィードバックを積極的に求め、その知見を全学生に反映させる体制を整えていく。</p>
3. 教育活動	3.7	<p>○1年次・2年次の基礎的な内容においても常に臨床を意識させる工夫が必要。教員自らが臨床力を高め、実践的な職業教育を行うことが望まれる。</p> <p>○成績不良者に対する補習だけではなく、成績優秀者のみが受講できる特別講義を行ってはどうか。</p> <p>○授業評価結果及び高評価を受けた教員の授業手法を講師にもフィードバックしてはどうか。</p>	<p>○教員は業界団体主催の研修会・セミナーに積極的に参加し研鑽を積んでいる。今後は外部講師が本校で行う特別授業(モチベーションアップセミナー)またはゼミに教員ができる限り臨席し臨床力の向上及び新しい技術の吸収に努める。</p> <p>○成績不良者のフォローに注力しがちであるが、成績優秀者をさらに伸ばして業界を牽引する人材を輩出することを目指す。そのためには専任教員・講師問わず情報を共有する体制を整えていく。</p>
4. 学修成果	3.0	<p>○成績不良者及び出席不良者に対し適切な対応がなされている。入学時の成績不良者及び適応力不適合者の選別ができる受験者数の確保が望まれる。</p> <p>○クラスにおける学生同士の指導が、成績不良者の学力向上に貢献する。級友同士が密接なコミュニケーションをとれる環境作りが必要である。</p> <p>○3年次に能力に基づくクラス替え、または1・2年次においては年齢構成や試験成績を考慮の上1組・2組で学力やモチベーションの差が出ないようなクラス分けを検討してはどうか。</p> <p>○卒業生の追跡調査を5年後または10年後に実施し、結果を学外実習の足掛かりとしてはどうか。</p> <p>○自主性を促す意味でも、学生中心の少人数制学習プログラム(寺子屋式)を取り入れてはどうか。</p> <p>○郵送での案内または大規模同窓会の開催を通じて、卒業生に母校の現状報告を行うことで協力を依頼してはどうか。</p>	<p>○3年次全員卒業、国家試験全員合格を目指し、逆算した教育を施していく。そのための手段となる各委員の指摘(クラスの連帯感涵養・年次毎の特定条件に基づくクラス分け・寺子屋式学習)について検討を重ねていく。</p> <p>○学園附属教育センター及び外部業者を活用し、教員のコーチングスキルを高めていく。</p> <p>○学園が運営する国家試験予備校『kuretake 塾』の教育ノウハウを、在校生の補習において活用していく。</p> <p>○留年者を出さないための対策について、学園としてプロジェクトチームを立ち上げ取り組む。</p> <p>○卒業時のアンケート調査に加えて、卒業後の追跡調査を実施する。</p>
5. 学生支援	3.7	<p>○国家試験不合格者向けの kuretake 塾にて教育支援を行っていることは評価に値する。</p> <p>○専門学校においても高等学校的な支援・指導体制を備えることにより在校生がドロップアウトすることを予防する必要がある。</p> <p>○特別な支援を要する学生への手厚い支援体制が整っていれば、学校の強みとして高校へのアピールポイントになる。</p> <p>○成績優秀者に対する学費免除があることをアピールし、在校生の学習意欲や本校受験者の志望動機を高める。</p> <p>○メンタルケア専門の部署が必要。</p> <p>○高等学校の進路担当者に呼びかけ、本校の授業内容、実技を実体験する機会を設けてはどうか。</p>	<p>○経済的支援として、学生支援室を中心に各種公的支援制度を積極的に紹介している。</p> <p>○退学・留年の要因となる欠席・成績不良に対して迅速に対応できるよう、徴候があった時点で担任が学業意欲・人間関係・メンタルケア等のきめ細かいフォローを行い、また教職員全体で担任をフォローできる体制作りをする。</p> <p>○学費が原因で学業を断念することがないよう、教務と事務が密接に連携していく。</p> <p>○保護者に本校の教育方針、教育内容についての案内送付を検討する。</p>
6. 教育環境	3.7	<p>○図書館の蔵書を充実させる必要がある。</p> <p>○夜間勤務の教職員が昼間勤務数より少ないため、夜間の防災体制が弱いと感じる。</p> <p>○スポーツ学科を設置する大学と積極的に連携してはどうか。</p>	<p>○予算を設定して新刊図書を購入しており、15,000冊の蔵書を有する。</p> <p>○毎年防災訓練を行い所轄消防署に報告している。</p> <p>○学園附属の東洋医学臨床研究所においてスポーツ医学に関する研究と臨床を行い、鍼灸科附属施術所において鍼灸小児外来を設けている。症例及び研究結果は学園医学会を通じて3校にフィードバックされている。</p> <p>○大学や他分野専門学校との連携を検討している。</p>

評価項目	平均値	評価	評価に対する今後の学校の取組等
7. 学生の募集と受け入れ	3.3	<p>○本校で国家資格を取得することにより何が変わるのかを志望者に分かりやすく提示することが必要である。</p> <p>○四谷・代々木という好立地を活かした学生募集活動を展開するべき。</p> <p>○トレーナー活動を行うOB・OGの特集冊子など、高校生が将来をイメージしやすい冊子を作成すると良い。</p> <p>○高校生のスポーツ大会や、地域のスポーツ大会等に協賛し、トレーナー活動や治療ブースを出展するような現場で高校生の目に触れる機会を作るとは有効と考える。</p> <p>○スポーツ系の大学や専門学校の卒業生にはトレーナーを目指して医療資格を取ろうと考える学生が少なくないため、学生トレーナーのイベント等に参加することやスポーツ系の学生にターゲットを絞った公開講座を行ってはどうか。</p> <p>○大学卒業後手に職を付けたいと考える者が多いため、大学生への募集活動に力を入れてはどうか。</p> <p>○新入生にアンケート調査を行い、なぜ本校を選んだかの理由を調査してはどうか。</p> <p>○鍼灸に興味を持つ高校生が少ないため、高校生が鍼灸を認識する機会を積極的に作っていく必要がある。</p>	<p>○質の高い学生を確保するために、各委員の指摘（本校の強み・立地条件・高校生、スポーツ系学生及び大学生へのアピール・新入生アンケート）について検討を重ねていく。</p> <p>○はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師は資格保持と同時に開業治療ができることや中途採用が多いという業界特有の事情に応じた就職状況を学校案内やホームページ等により伝えていく。</p>
8. 財務	3.9	<p>○本校独自の魅力を打ち出すことにより入学者の増加と退学者の減少を目指し、学生数の増加による財務の安定を図ることが望まれる。</p> <p>○生徒の退学率を下げることも重要だが、入学時にできるだけ意欲の高い生徒を入学させることがより重要であるため、入学試験成績優秀者に対する学費優遇などを取り入れてはどうか。</p> <p>○入学者の意欲が高くなれば、退学者が少なくなり本校の評価も高くなるため、学外実習を行いやすくなると考える。</p> <p>○高校生向けの鍼灸説明会を卒業生に委託してはどうか。</p>	<p>○外部監査による健全な学校経営を維持するとともに、学校説明会を初めとした広報募集活動の強化を図る。</p> <p>○退学率の原因を詳細に調査し、改善を図っていく。</p>
9. 法令等の遵守	4	<p>○特に問題なく適正な運営がなされている。</p> <p>○自己評価によって浮き彫りになった課題の実行は、実現可能で優先順位の高いものからで良いと考える。</p>	<p>○専門家の助言を求めながら法令倫理に則ったコンプライアンス体制を構築し、教職員及び学生に法令遵守を徹底していく。</p> <p>○自己評価内容を教職員に周知し、実行に移していく。</p>
10. 社会貢献	4	<p>○業団主催の東京マラソン及び新宿シティーハーフマラソンの学生ボランティアに積極的に協力していることは評価できる。学生が熱心にボランティア活動に参加する姿は清々しい。</p> <p>○地域に対する活動(例:公開講座、ゴミ拾いなど)を実施してはどうか。施術所の宣伝や患者確保に繋がる可能性がある。</p>	<p>○健康イベントや学園祭を通じて地域住民、近隣施設や企業との関わりがあるが、さらに地域連携に力を注いでいく。</p> <p>○各種学会の主管や人員の派遣を通じて業界団体と関わりがあるが、今後も様々な活動の支援を行っていく。</p> <p>○ボランティア活動は学業に支障がないことを条件に支援、指導していく</p> <p>○本校または校友会主催の講演会に地域住民が参加できるように企画する。</p>

### 3. 総評

上記10項目に対し、委員による評価の平均値は3.7(4段階評価)であったことから、東京医療専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

一方で、実践的な臨床教育の整備並びに学生の学力向上に対する取組等に対し常に時代に即した対応を行い、教育の質の向上に一層の努力を望む。

以上